

地域が連携・主導する地域再生計画の策定と推進に向けて  
「山古志 復興新ビジョン研究会」(案)

平成16年12月18日

## 地域主導による「自立と再生」の地域づくり計画が 山古志周辺地域にとって最大の支援となる

震災前に「戻す」のではなく、震災を「超える」ために

壊滅的な被害を受けた山古志周辺地域は、地域崩壊の危機に直面している。この危機を乗り越え、地域と暮らしを再生していくためには、住民が将来への希望を持てる新たな地域づくりのビジョンや計画が不可欠となる。

地域を再生するには、垣根を超えた多彩な知恵が不可欠

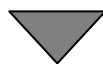
地域再生はハード整備だけでなく、地域産業・経済の再生、そして生活・コミュニティの再生等を視野に入れる必要がある。柔軟かつ専門的な視野と情報を持つ民間の力を活用して、総合的な地域再生計画を検討・策定していくことが重要となる。

地域主導で豪雪地帯ならではの独自の再生計画を策定

山古志周辺地域は日本有数の豪雪地帯に位置し、独自の資源と文化を有している。再生計画には、地域特性を踏まえ活用する、地域に即したオーダーメイドの再生計画が求められる。それを検討・策定できるのは、「雪を知り、新潟を知っている」人と組織に他ならない。

再生の地域づくりを推進するのは地域社会と住民

再生計画は策定されて終わるものではない。その計画に基づき新たな地域づくりを始めることで、山古志周辺地域は再生の途につくが、真の再生のためには、継続的な地域づくりに取り組んでいく必要がある。そうした継続的な活動を担保していくためにも、新潟地域に広範囲なネットワークを形成していく必要がある。

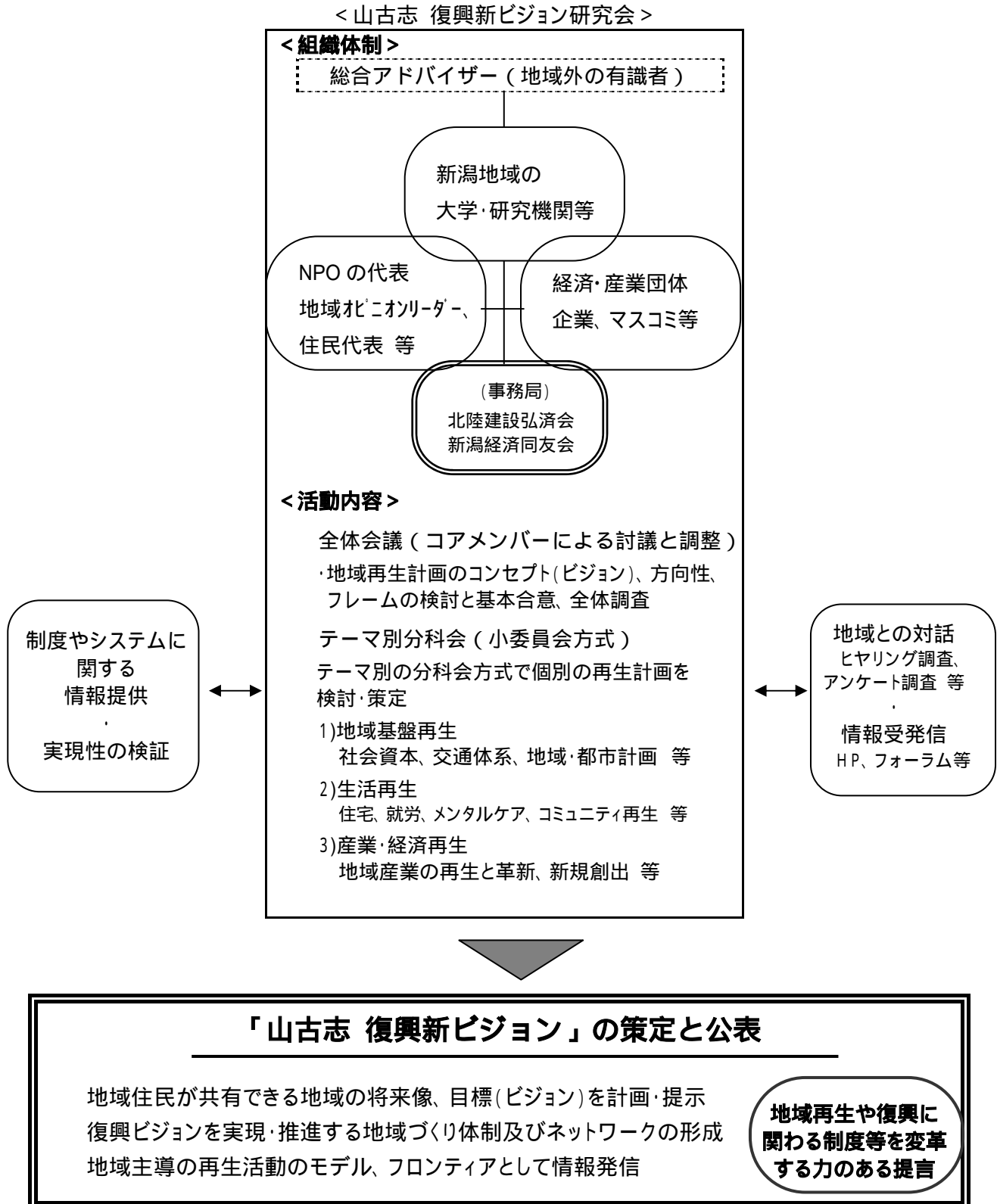


山古志周辺地域の再生と自立に向けた地域づくりを計画・推進する

**「山古志 復興新ビジョン研究会」の発足と活動**

## 2. 「復興新ビジョン研究会」の活動内容

地域の大学や研究機関を中心としたコンソーシアム（協議会）として、山古志周辺地域の再生計画を策定することを目的として発足。住民と地域が求める様々な分野での復興プランを計画・提言し、地域と日本を動かしつつ、さらに実際の再生活動を支援していく。



### 3. 「山古志 復興新ビジョン研究会」の組織体制

#### 復興ビジョン円卓会議

総合アドバイザー	伊藤 和明 (NPO 法人 防災情報機構 会長)
委員長	江村 隆三 (新潟経済同友会 筆頭代表幹事)
	3 分科会座長



事務局	
(社)北陸建設弘済会 (北陸地域づくり研究所)	柳沢今朝次郎、山口壽道、滝下早織、山田高史
新潟経済同友会	水間秀一
長岡造形大学	澤田雅浩
(株)NHK プロモーション	仁木康之、西沢和芳
(株)コミュニケーション科学研究所	富田一也、藤井裕之
(株)建設技術研究所	山根正博、長南政宏、金子学、磯村辰彦
(株)新潟博報堂	岩城由香

#### 4. 研究会の進め方と想定スケジュール（案）

第1回研究会で大きな方針・方向性を議論・設定し、その合意に基づいて、各分科会で個別テーマを議論する「ボックスキャン方式」を進める。

全体会議では、委員長と3分科会座長を中心に、研究会の方針や大きな枠組みを調整・決定し、それに基づいて各分科会で具体的なメニューやプログラム(提言)を検討する。各分科会の成果を全体会議で調整することで、研究会としての提言として集約する。

基本的には各委員と事務局が協議して、検討資料を準備し、それを基に議論し集約するという会議運営とする。分科会では委員からの資料や情報提供、報告なども随時行う。

